					【Plan】 計画 /	/ [Dc	実施								→	[Ch	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要	事業	I	標(目標・実績)				年度	H29年度		(目安))年度		- R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
・施策名		土な争乗・収組	所官踩石	7.51. 7.11.2.11.2	指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職 位 人数	事業評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
							目 A (計画どおり)	A (計画どおり)						課 0.30 人					
					公立大学法人北九州 市立大学評価委員会 における各事業年度 に係る業務に対する 評価	A (H29年 度)	実 A (計画どおり)	研究・社会貢献 分野:A(計画 どおり) 教育・管理運営 分野:B(概ね 計画どおり)						長 0.30 /					
		公立大学法人北九 州市立大学運営事	企画	公立大学法人の設置者 として、地方独立行政法 人法第42条に基づき、業			達 成 — 率	-						Œ		平成30年度に係る公立大学法 人北九州市立大学評価委員会の 評価結果は、「A(計画どお り)」又は「B(概ね計画どお り)」との評価を得ており、平			
	I	州市立大字連宮事 業 	課	務連宮に必要な経費を父 付し、法人の業務運営の 健全性を確保する。			目 単年度の 目標設定 なし	単年度の 目標設定 なし		- 2, 226, /30	2, 219, 416	2, 473, 074	13, 200	係 0.30 /	川調	り)」との評価を得ており、平成30年度の目標を概ね達成したため、「順調」と判断。			
					公立大学法人北九州 市立大学評価委員会 における中期目標期 間に係る業務に対す る評価	A (H28年 度)	実	_	A (R4年度)					職 0.90				【評価理由】 公立大学法人北九州市立大学 の評価について、概ね計画どお	
I -2-(1) ② 大学なと							達 成 — 率	_						員 0.90 /			- 順調	りとの評価を得ている。 また、「調査研究助成金の助 成実績」は目標を上回ってお	引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化ストレナルの開始
大学など の教育研究機能の 充実	T)						目 7 件	7 件						課 0.10 分			一川良祠	こから「順調」と判断。 【課題】	電子の はまた。 本の はまた。 はなどを支援するとともに、 助成などを支援するとともに、 助成金については、 ニーズに応じた効果的な調査研究活動の支援に努めていく。
					調査研究助成金の助 成実績	8件 (H29年 度)	実 8 件	9 件	7件 (R1年度)					長 0.10 /		調査研究助成金については、9 件の研究に助成を行い目標を上 回った。なお、対象事業の成果		引き続き大学の取組を注視するとともに、助成金については、効果的な調査研究活動の支援に努めていく必要がある。	
	2	学術・研究振興事	企画	市内の教育研究機能の 充実を図るため、市内の 大学などに所属する教員 等が行う「アジアや北九			達 成 114.3 % 率	128.6 %		- 7, 836	7, 460	7, 986	4, 400	係 0.10	大変	報告会を開催する等、成果についても客観的な評価を行っている。 また、大学連携促進助成金に			
		業	課	州市の社会経済等の問題」及び「地域の公共政策」に関する調査・研究に対する助成を行う。			目 5 件 標 ⁵			7,000	7, 400	7, 900	4, 400	長 0.10 /	順調	ついては、各高等教育機関の判断に委ねられるため指標としては廃止しているが、平成30年度も事業を実施。大学等より応募もあり、大学連携の促進に寄与			
					大学連携促進助成金 の助成申請実績	4件 (H26年 度)	実 4 件 績		25件 (H27~R1 年度)					職 0.30		しているため評価を「大変順」。調」と判断。			
							達 成 80.0 % 率							員 0.30 /					

				宿果(企画調整局 <i>)</i>	【Plan】 計画 /	/ [Do] 実施									(Ch	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号 •施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業		標(目標・実績)		± #0		年度	H29年度		(目安)	± 414		年度		- R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
nex a		工分子未 机机	Ment		指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職 人数	事業評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	心束の力円は
							目 A (計画どおり)	A (計画どおり)						課 0.30					
					公立大学法人北九州 市立大学評価委員会 における各事業年度 に係る業務に対する 評価	A (H29年 度)	実 A (計画どおり)	研究・社会貢献 分野:A(計画 どおり) 教育・管理運営 分野:B(概ね 計画どおり)	(伝伝曲)					長 0.30					
	3	公立大学法人北九 州市立大学運営事		北九州市立大学地域戦 略研究所での地域研究プロジェクト、受託調査を			達 成 — 率	_		- 2, 226, 730	2, 219, 416	2, 473, 074	13, 200	係 0.30	人順調	平成30年度に係る公立大学法 人北九州市立大学評価委員会の 評価結果は、「A(計画どお り)」又は「B(概ね計画どお			
		*	誄	通じて、地域研究の高度 化を推進する。	公立大学法人北九州		目 単年度の目標設定	単年度の 目標設定 なし						x		り)」との評価を得ており、平成30年度の目標を概ね達成したため、「順調」と判断。			
					市立大学評価委員知言では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方	A (H28年 度)	実	_	A (R4年度)					職 0.90	,			【評価理由】 公立大学法人北九州市立大学 の評価について、概ね計画どお りとの評価を得ている。	引き続き公立大学法人北九州
I-2-(1)- ④ シンクタ ンクを活							達 成 — 率	_									- 順調	りとの評価を得ている。 また、アジア成長研究所については、指標を上回る実績をあげていることから「順調」と判断。	市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などを支援する。 アジア成長研究所については、今後も地域の政策課題や企
ンカー 大石 で 大石 で 大石 で 大石 で 大石 で 代							目 5 本	: 5 本	_					課 0.10	,			「化」で榧村しなかり、「地域へ	業活動等への貢献に重点を置いて活動するとともに、引き続き、研究活動については外部資金を獲得するなど、不断の努力を行う。
					著名な学術雑誌への 論文掲載数	_	実 8 本	9 本	5本 (毎年度)									の知的貢献」を目的とする活動 をより推進していく必要があ る。	
	4	(公財)アジア成 長研究所補助金		本市がアジアの中核的 な産業都市として持続的 な成長を実現するため、 国際水準の知的基盤の強 化と地域への知的貢献を			達 成 160.0 % 率	180.0 %		- 140, 000	140, 000	140, 665	4, 650	係 0.20	人順調	事業評価の成果指標の内、 「著名な学術雑誌への論文掲載 数」は目標を上回っており、 「科学研究費を含む外部資金獲			
		E 41 20171 1111 23 IE	課	目的とする活動を行う (公財)アジア成長研究 所に補助金を交付する。			目 6 件	6 件								得数」は目標に達しているため、「順調」と判断。			
					科学研究費を含む外 部資金獲得数	_	実 4 件	6 件	6件 (毎年度)					職 0.20					
							達 成 66.7 % 率	100.0 %											

					【Plan】 計画 .	/ [Do	実施										[Ch	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号		基本計画の施策を構成する	十 西 市 樂		事為	業評価の成果指	標(目標・実績)			H30年	度	H29年度	人件:	閏 (目安)			H30	年度		R2年度予算要求に向けた
・施策名	No.	主な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職位人	数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
							目 A 標 (計画どおり)	A (計画どおり)						課 0.3	0 1					
					公立大学法人北九州 市立大学評価委員会 における各事業年度 に係る業務に対する 評価	A (H29年 度)	実 A 績 (計画どおり)	研究・社会貢献 分野: A (計画 どおり) 教育・管理運営 分野: B (概ね 計画どおり)	/左左虫\					長 0.00						
	5	公立大学法人北九州市立大学運営事	企画	公立大学法人の設置者 として、地方独立行政法 人法第42条に基づき、業			達 成 — 率	_		- 2, 226, 730	2, 219, 416	2, 473, 074	13. 200	係 0.3	0 J	順調	平成30年度に係る公立大学法 人北九州市立大学評価委員会の 評価結果は、「A(計画どお り)」又は「B(概ね計画どお			
		*	課	務運営に必要な経費を交付し、法人の業務運営の 健全性を確保する。			目 単年度の 目標設定 なし	単年度の 目標設定 なし						長		rocurs	り)」との評価を得ており、平成30年度の目標を概ね達成したため、「順調」と判断。		【評価理由】 公立大学法人北九州市立大学	
I -2-(2)- ③ アジアな					公立大学法人北九州 市立大学評価委員会 における中期目標期 間に係る業務に対す る評価	A (H28年 度)	実	_	A (R4年度)					職 0.9	0 J				の評価について、概ね計画どおりとの評価を得ている。 また、留学生の支援事業を予定通り実施し、外国人人口の社会動態増加数も目標値を概ね達	引き続き公立大学法人北九月市立大学の健全な業務運営と表育研究の高度化、地域への貢献などを支援する。
どのなける人がある。							達 成 — 率	_						頁 ····				順調	成していることから「順調」と 判断。 【課題】 留学生と地元企業の相互理解	留学生の受入定着促進については、平成30年度に作成したPツールを活用して積極的かつ効果的に広報していくとともに、留学生と地元企業の相互理解の
						시모나	目標	+1, 400 人						課 0.30	0 J				電子主と地元正素の相互 生 度については、令和2年度の中期 目標に向けて、積極的・効果的 な取組みに努める必要がある。	促進に努める。
					外国人人口の社会動態増加数(H28年増加数比)	外国人社 会動態増 加数+ 1,010人	実績	+1,273 人	+1,600人 (R1年)					長 0.3						
	6	地方創生に向けた 留学生等受入定着	国際政策	留学生等を地域で支え る体制を構築し、留学誘 致、生活支援、就職支援			達成率	90.9 %		- 21,000	16, 300	_	8, 700	係 0.3	0 J	順調	予定通り、留学誘致PRツールの作成や留学生支援ネットワークでの情報共有・意見交換の場			
		促進事業	課	の各施策を一体的に実施し、定着促進を図る。	 留学生と地元企業の 相互理解度		目標	単年度目標 設定なし			,			技		70(11)	を設けたことや、留学生の生活支援のための取組みも実施したことから「順調」と判断。			
					留学生等高度人材活 用の向上(企業との 相互理解が進んだ状態=留学生が市内企	20.9% (H29年 度)	実績	_	35.0% (R2年度)					職 0.3	。 。人					
					業の情報を4社以上 知っている)		達成率	_						貝						

1 /2000	<u>'TIX</u>		4X 1/11 /	柘朱(企画調金 <i>同)</i>																
					【Plan】 計画 .	/ [Do)]	実施									[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
佐午来 旦		甘木弘面の佐笠を挟むする	_ = = *		事	業評価の成果指	指標 (E	目標・実績)		H30:	年度	H29年度	人件到	1 (目:	安)		H30	年度		- R2年度予算要求に向けた
施策番号 •施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		H29年度 H30年度	中期目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
				外国人市民が安心して 暮らすことができる名文	市民の「多文化共		目標	50 % 50 %						課長	0.05 人		多文化共生ディスカッション を実施し、「必要な生活情報と			
	7	多文化共生推進事 業	国際 政策 課	外国人市民が安心して 暮らすことができるりを 化共生のまちづくり 作出を が抱える生活上の諸問題 や でと が抱える生活と で で で き り で き り で き り で り り で り り り の ま り の ま り の ま り に り に り れ り に り に り に り に り に り に り に	生」といっ言葉の認知度 ※中期目標改訂 (R1年度目標設定時)	51.8% (H29年 度)	実績	51.8 % 54.8 %	53%以上 (R1年度)	3, 971	3, 253	3, 313	3, 075	係長	0.10 人	順調	その伝え方」について意見を聞くことができた。また、「多文化共生」という言葉の認知度が目標数値を上回ったことから			
				や支援に対するニースの把握を行う。	(R1年度目標設定時)		達成率	103.6 % 109.6 %						職員	0.20 人		「順調」と判断。		【評価理由】 外国人市民から直接意見を聞 く場の設定や、留学生の受入定	
Ⅱ-3-(3) ① 文社現 生実けた構築					外国人人口の社会動態増加数(H28年増加数比)	外国人社 会動態増 加数+ 1,010人	績	+1, 400 人 +1, 273 人	+1, 600人 (R1年)					課長	0.30 人			川良祠	【評価理由】 外国人市民から直接意見を聞く場の設定や、留学生のおりまでを入りまた。 着に関する活動も目標どもりまた。 施し、市民の「多文化共生」という言葉の認知度についることから標数値を上回っていることが、 に関題】	ディスカッション等を通して 聴取した外国人市民の生活上の 諸問題や支援に対するニーズを 取り入れ、効果的な事業実施に 努める。また、令和2年度に向け て、国際政策推進大綱の改訂も 視野に入れながら、幅広く を聴取する場を設ける。
の情楽		地方創生に向けた 留学生等受入定着 促進事業	国際 政策 課	留学生等を地域で支え る体制を構築し、留学誘 致、生活支援、就職支援 の各施策を一体的に実施 し、定着促進を図る。	留学生と地元企業の 相互理解度		達成率目標	90.9 % 単年度目標 設定なし		21,000	16, 300	_	8, 700	係長	0.30 人	順調	予定通り、留学誘致PRツールの作成や留学生支援ネットワークでの情報共有・意見交換の場を設けたことや、留学生の生活支援のための取組みも実施したことから「順調」と判断。		衛学生と地元企業の相互理解度については、令和2年度の中期目標に向けて、積極的・効果的な取組みに努める必要がある。	を聴取する場を設ける。
					留学生と地元 留学生と地度 和互理解等高度 人材との 用の向上(企業の 相互理解が進んだの 能=留学生がが市内企業の情報を4社以上 知っている)	20. 9% (H29年 度)	実績 達成率	-	35.0% (R2年度)					職員	0.30 人					

				【Plan】 計画 /	/ 【Do] 実	拖								[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号	No. 基本計画の施策を構成する 主 主な事業・取組 所	要事業管課名事業	業・取組概要	事業	と評価の成果指	標(目標・	実績)			年度	H29年度		費 (目安)		H30:	I	I	- R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
・施策名	王な争業・収組 州	官誅名		指標名等	現状値 (基準値)	H29	年度 H30年度	中期日標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職 位 人数	事業評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
		人市民へ て、行政 (健康診 ンティア	の不得手な外国 のサポートとし 機関や医療機関 査)に通訳ボラ を派遣するとと	外国人市民の生活環		目 単年 設定	度目標 単年度目 なし 設定なし	京					長 0.05 人		行政通訳派遣件数は、事業委託している北九州国際交流協会と学校・保育所・市保健師等及び外国人支援関係機関との連携により、子育て関連を中心に順調に推移している。			
		恢 た通訳を た向 りまたする をするこ	る。 多言語等でわか 生活情報の提供 とにより、外国	(多文化共生の現状 調査で暮らしやすい	79.7% (H26年 度)	実績	_	80% (R1年度)	3, 971	3, 253	3, 313	2, 325	係 0.10 /	順調	医療通訳派遣は、登録病院制度により、地域の小規模医療機関への派遣が可能となっている。さらに、登録病院制度周知のための無料キャンペーンも実施した。			
		人市民の	安全・安心な生整備を推進す			達 成 - 率	- -						職 0.10 丿		行政通訳、医療通訳ともに、 専門家によるボランティアを対象とした研修も実施したことから「順調」と判断。			
		世界に開 地域づく というビ	化を受け入れ、 かれた魅力ある りと人づくり」 ジョンのもと、	市民の「多文化共		目 50	% 50	%					課 0.05 /	_	国際交流団体や市民を幅広く 巻き込んだ啓発に努め、多文化 共生の意識付けを行っている。			
	10 (公財) 北九州国 政際交流協会補助金 講	歴策 を推市を 広活動 を が が が が に が の に の に の に の に の に の に り に り に り り り り	るとともに、幅による国際交流 進して諸外国と 解や友好親善を 際平和に寄与す		51.8% (H29年 度)	実 51.	3 % 54.8	53%以上 (R1年度)	48, 018	48, 018	48, 489	2, 325	係 0.10 /	. 順調 	共生の意識付けを行っている。 また、国際交流員の派遣の依 頼先に広がりが見られること や、国際理解推進員の着任によ り新たな国際交流イベントも開 されたことから、「順調」と 判断。		【評価理由】 行政通訳・医療通訳における (公財) 北九州国際交流協会と 関係者(行政、学校、外国人支 援機関)との綿密な連携が図れ	
II-3-(3)- ② 外国人市 民の生活		推進する				成 103. 率 目 単年	6 % 109.6 度目標 単年度目 なし 設定なし	高茶					課 0.05 /			順調	でいることや、国際理解を目的とした講座の派遣先にも広がりが見られることから「順調」と判断。 【課題】	今後も(公財)北九州国際交 流協会と連携し、効率的・効果 的な外国人支援施策を進めてい
環境の充 実		外国人 やすい・ 造の整備	にとって、住み住みたくなる環を進めるため、対応した生活を	外国人市民の生活環		惊 政人	なし 放定なり						長	=	調査や各方面との連携から人選した、多文化共生キーパーソ		外国人市民支援事業や多文化 共生の意識啓発を引き続き実施	ζ.
		策 接及ひ目 化共生の 国人自ら		境の向上 (多文化共生の現状 調査で暮らしやすい と回答)	79.7% (H26年 度)	実績	- -	80% (R1年 度)	5, 000	5, 000	8, 000	2, 325	係 0.10 /	、 順調	とした、マストスイイン・インや外国人市民人材に対し、それぞれの個性を活かして社会参画するための研修を目標の3回を上回る5回実施することができたため、「順調」と判断。		しながら、次のステップとして、外国人市民が地域コミュニティを支える力や多文化共生の担い手として活躍できるような仕組みづくりを推進していく必	
		上させる	主体の石刀を凹っ			達成率	- -						職 0.10 丿		7.この7、「川央部」 と十月的1。		要がある。	
				以国人人口の社会 動	外国人社	標	+1, 400						課 0.30 人					
				外国人人口の社会動 態増加数(H28年増 加数比)	会動態増加数+ 1,010人	績	+1, 273	+1, 600人 (R1年)							7 - 7 1 M			
	地方創生に向けた 国 12 留学生等受入定着 政 促進事業 講	際 る体制を	等を地域で支え 構築し、留学誘 支援、就職支援 を一体的に実施			達成率	90. 9		21, 000	16, 300	_	8, 700	係 0.30 /	順調	予定通り、留学誘致PRツール の作成や留学生支援ネットワー クでの情報共有・意見交換の場 を設けたことや、留学生の生活			
	I I	し、定着	4月半七回2	留学生と地元企業の 相互理解度 留学生等高度人材活 用の向上(企業との 相互理解が進んだたの 相互理解が生が市内企 態度の 1000円 10000 10000 10000 10000 10000 10000 10000 10000 10000 10000 10000 10	20. 9%	目標	単年度目設定なし	35.0%						_	支援のための取組みも実施した ことから「順調」と判断。			
				用の同工(正来との 相互理解が進んだ状態=留学生が市内企 業の情報を4社以上 知っている)	(H29年 度)	実績達成率		(R2年度) —					職 0.30 月					

				【Plan】 計画 /	/ [Do)]	実施									•	[Che	ck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号	No. 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要	事業	業評価の成果指	標(目	標・実績)	I		H30	年度	H29年度	人件:	党 (目安	?)		H304	丰度		- R2年度予算要求に向けた
・施策名	主な事業・取組	所管課名	· 中木 · 以他似女	指標名等	現状値 (基準値)		H29年度	H30年度	中期目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職 位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
			日本人市民に対する意識 を発や国際交流の機でで 場の提供を行うことも 場の提供を行うれとは 外国くります。	市民の「多文化共		目標	50 %	50 %	6					課 0	0.10 人		昨年度に引き続きFMラジオ番 組の1ヵ月間のコーナーを活用 し、北九州市在住の外国人市民			
	13 多文化共生推進事業	国際 政策 課	が外国人ができます。 が国人がを目指すとといる で、すべての市民が安心 に、すべての自己の能力 を発揮できる「多文化共	生」という言葉の認知度 ※中期目標改訂 (R1年度目標設定時)	51.8% (H29年 度)	実績	51.8 %	54.8 9	53%以上 (R1年度)	3, 971	3, 253	3, 313	5, 650	係 6	0.30 人	順調	に自国の文化や日本での生活に ついて紹介してもらったほか、 地域での出前講演を行い、日本 人市民に対する多文化共生の意			
			を発揮できる「多文化共 生先進都市」としてのま ちづくりを推進する。	((1-12 H)#BAZE**//		達成率	103.6 %	109.6 9	6					職 0	0. 20 人		識啓発を実施できたため、「順調」と判断。			
			「多文化を受け入れ、 世界に開かれた魅力ある 地域づくりと人づくり」 というビジョンのもと、	市民の「多文化井		目標	50 %	50 %	6					課 0	0.05 人		国際交流団体や市民を幅広く 巻き込んだ啓発に努め、多文化		【評価理由】 成果指標である「多文化共	
II -3-(3)-	14 (公財) 北九州国際交流協会補助金	国際 政策 課	多文化共生の社会づくり を推進するとともに、幅 広い市民による国際交流 活動を促進して諸外国と	生」という言葉の認知度 知度 ※中期目標改訂	51.8% (H29年 度)	実績	51.8 %	54.8 9	53%以上 (R1年度)	48, 018	48, 018	48, 489	2, 325	係 長 0	0.10 人	順調	共生の意識付けを行っている。 また、国際交流員の派遣の依 頼先に広がりが見られること や、国際理解推進員の着任によ り新たな国際交流イベントも開	順調	生」という言葉の認知度が毎年順調に上昇していることや、 (公財)北九州国際交流協会や 国際交流団体との連携で幅広く 事業を実施していることから	引き続き、(公財)北九州国際交流協会や国際交流団体と連携しながら多文化共生の啓発を
市民の国 際理解の 推進			の相互理解や友好親善を 深め、国際平和に寄与す る開かれたまちづくりを 推進する。	(KI平及日標設正時)		達成率	103.6 %	109.6 9	6					職 0	0.10 人		催されたことから、「順調」と 判断。	川民司列	「順調」と判断。 【課題】 留学生と地元企業の相互理解 度については、令和2年度の中期	進めるとともに、留学生と地元 企業の相互理解度の促進に努め る。
				外国人人口の社会動 態増加数 (H28年増 加数比)	外国人社 会動態増 加数+ 1,010人	目標実績		+1, 400)	±1 600 l					課 0	0.30 人				目標に向けて、積極的・効果的な取組みに努める必要がある。	
	地方創生に向けた 15 留学生等受入定着 促進事業	国際 政策 課	留学生等を地域で支える体制を構築し、留学生等数、生活支援、就職支援の各施策を一体的により、定着促進を図る。	留学生と地元企業の 相互理解度	1,010	達成率目標		90.9 9 単年度目析 設定なし		21,000	16, 300	_	8, 700	係 長 0	0.30 人	順調	予定通り、留学誘致PRツール の作成や留学生支援ネットワー クでの情報共有・意見交換の場 を設けたことや、留学生の生活 支援のための取組みも実施した			
			O. Kakeedo.	留学生等高度人材活 用の向上(企業との 相互理解が進んだ状態=留学生が市内企	20. 9% (H29年 度)	実績達		_	35.0% (R2年度)					職 0	0.30 人		ことから「順調」と判断。			
				知っている)	1年が近んで、 度) 三留学生が市内企 の情報を4社以上 っている)		100	100												
				北九州市への50歳以上の転入者の増加数	0人 (H27年	175		△59 J	Y448人 (H28~ R2年度)					課 0	0.30 人		移住希望者会員登録制度「北九州市すまいるクラブ」会員登		【評価理由】	
Ⅲ-1-(1)- ② 定住促進		地方	北九州市まち・ひと・ しごと創生総合戦略に人 口減少対策の重要な柱の 1つとして位置づける		度)	達成率	_	_	(24 及)								録件数は、目標値を上回り、首 都圏等での移住セミナーなど積 極的な情報発信や移住支援体制 の構築などを実施している。こ うした取組が実を結び各種メ		移住希望者の会員登録数は目標値を上回り、また情報発信に も積極的に取組んでいるが、本 市への50歳以上の転入者の増加	本市への定住・移住促進に向けて、本市の住みやすさや魅力
) 定住促進 性化のた めの づくり	16 定住・移住促進事 業	創生 推進 室	「定住・移住の促進」を 図るため、首都圏におけるPRや「北九州市版生涯 活躍のまち」の推進等に			目標	50 件	50 #	<u> </u>	50, 700	48, 914	52, 843	28, 450	係 1	1.00 人	やや 遅れ	ディアで、本市が「住みたい地 方都市」として取り上げられる など、成果が出始めている。 一方で、北九州市への50歳以	やや 遅れ	に至らなかったことから「やや 遅れ」と判断。 【課題】 情報発信や移住支援体制を充	などの情報発信に取り組むとと もに、移住支援体制をよりいっ そう充実させていく。
			向けて取り組むもの。	50歳以上の「北九州 市すまいるクラブ」 登録件数	31件 (H28年 12月)	実績	108 件	103 4	220件 (R2年度)					職 2	2.00 人		上の転入者も前年度に比べ改善が見られたものの、増加しなかったため、「やや遅れ」と判断。		実させ、今後の実際の転入者増加につなげていく必要がある。	
						達 成 2	216.0 %	206.0 9	6					貝						

					【Plan】 計画 .	/ [Do]	実施									[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号		甘木計画の佐竿も様式する			事	業評価の成果指標	票(目標・実績)			H304	年度	H29年度	人件	費 (目安)		H30	年度		P2年度予算更改に向けた
・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職 人数	事業評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	- R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
				ユネスコ世界遺産に登録された官営八幡製鐵所			目 5万 人	5万 人						課 0.30 人		地域の祭りへの参加(出展) や親しみやすいPRチラシの作成 など、世界遺産の理解促進に努			
	17	世界遺産推進事業	HAIN.	関連施設について、その 価値の理解増進のため、 来訪者受入れ環境の整備 はもとより、市内外へ同	旧本事務所眺望ス ペースの来場者数	_	実績 2万2千 人	1万9千 人	20万人 (H28~ R1年度)	24, 000	22, 661	22, 583	8, 700	係 0.30 人	遅れ	など、世界遺産の理解促進に努めた。トイレや駐車場の確保により眺望スペースに行きやすい環境づくりも行っているが、眺望スペースの来場者数は目標に			
				けた広報・PR活動を展開する。			達 成 44.0 % 率	38.0 %						職 0.30 人		達しなかったため、「遅れ」と判断。	_		
							目 診断の実施 標	耐震設計の 実施						課 0.30 人				【評価理由】 世界遺産登録後、資産保全に向けて関係を所とは話しなる。	
	18	世界遺産登録資産 保全活用事業	世界遺産課	国や関係自治体、所有 者等との連携のもと、遺 産価値の保全につとめ る。	登録資産の保全	現状把握のための調査継続	実 資産の耐震 診断の実施	資産の耐震 設計の実施	保全計画策 定 (R1年度)	8, 900	8, 799	8, 068	8, 700	係 6.30 人	順調	予定していた旧鍛冶工場、修 繕工場の耐震設計を実施したため、「順調」と判断。		にない。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	
I−2−(1)-) 近代化遺 産などの							達 成 — 率	_						職 0.30 人			やや	た。しかし、来場者数は目標に達しなかったことから「やや遅	世界遺産登録された構成資産の保全を行っていくと共に、同保機と連携してインタープ
た 化財の R存・継 K					旧本事務所眺望ス	-	目 5万 人 実 2万2千 人	5万 人	20万人 (H28~					課 0.30 人			遅れ	【課題】 登録後3年が経過して眺望ス	デーション (理解増進・情報等信) の取り組みを推進し、産業革命遺産としての価値を継承していく。
					ペースの来場者数	-	達	38.0 %	R1年度) 					長 0.30 人				ペースの来場者数も減少傾向にあることから、世界遺産の魅力を伝えるための更なる情報発信の強化が必要。産業革命遺産という文化遺産としての価値を継承していくため、他の構成資ととの関連や近世ではあるととの関連や近世であるととの関連や近世であるととの関連や近世であると	
			世界	本市の特色を活かしながら、世界遺産を含む北九州市の取組みを効果的に発信できるツールの開発や機会を増せるように			目標 3,645 万人	3, 652 万人								市内外の学校への社会見学や 修学旅行の誘致の実施、AR記念 撮影アプリの導入や来場者記念		などとの関連や位置づけも含めてPRする必要がある。	
	19	世界遺産関連連携 事業	1	に発信できるツールの開発や機会を増やし、幅広い世代・地域の来訪者を呼び込む。	北九州都市圏域内への観光客数		実績 3,501 万人 達成率 96.0 %		3,658万人 (R1年度)	6, 800	6, 619	11, 355	8, 700	係 0.30 人	やや 遅れ	カードのリニューアルなど、集 客増に向けた土台作りが進んでいるが、眺望スペースの来場者 数は目標に達しなかったことから「やや遅れ」と判断。			
							_	178.2 万人		_						り、その性10」と刊劇。			
					北九州都市圏域内の 宿泊者数	(H27年度)	実 績 232.5 万 人	集計中	178.6万人 (R1年度)					職 0.30 人					

				【Plan】 計画 /	/ 【Do) !	実施										[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号 施策名	No. 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要	事業	業評価の成果指 - 現北は	標(目標			⇔ #0	H304		H29年度		1 日 3	安)	± ₩.	H304			R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
16×1	地方創生に向けた	国際	留学生等を地域で支え る体制を構築し、留学誘	指標名等 外国人人口の社会動態増加数 (H28年増加数比)	現状値(基準値) 外国人社会動数+ 1,010人	目標実		+1,400 人 +1,273 人 +00.9 %	中期 目標 -1,600人 (R1年)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	(千円)	X	0.30 人	事業語	評価の理由 予定通り、留学誘致PRツールの作成や留学生支援ネットワークでの情報共有・意見交換の場	局施策 評価 -	局施策評価の理由及び課題	ルタングドロ
	20 留学生等受入定着 促進事業	政策 課	致、生活支援、就職支援 の各施策を一体的に実施 し、定着促進を図る。	留学生と地元企業の 相互理解度高度人材活用の向上(が進入がです。 用の可解が進んが市内 相互理解学生が市内内 態業の情報を4社以上 知っている)	20. 9% (H29年 度)	目標 実績 達成率		単年度目標設定なし	35. 0% (R2年度)	21,000	16, 300	_		聯	0.30 人	順調	を設けたことや、留学生の生活支援のための取組みも実施したことから「順調」と判断。		【評価理由】 企業と学生のマッチング件数 は伸びなかったものの、奨学金 返還支援事業の申請件数は実績 を上げており、外国人人口の社 会動態増加数も目標を概ね達成	留学生の受入定着促進につい
IV-3-(1)- ② 域ニー ・ はニー ・ はこ ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は	21 北九州市未来人材 支援事業	企画課	北九州市内の企業で中 長期的に活躍し、本市の 産業を担う人材を全国か ら確保・育成することを 目的に、市内企業への就 職と定住を条件に新卒者 の奨学金返還を支援す る。		301件 (H29年 度)	実績		317 件 (900件 (H29~R1 年度)	70, 026	17, 010	245, 000	23, 000	係長	0.50 人	順調	奨学金返還支援事業について 学生に周知し、目標を上回る交付候補者の申請があったため 「順調」と判断。 今後は、市内の認定企業に就 職した交付対象者に対して、交 付の準備を行う。	順調	しているため、「順調」と判断。 【課題】 留学生と地元企業の相互理解度については、令和2年度の中の中では、令和2年度の中の中で対象の場合である。 引き続き、地元定着促進に向けた課題の把握と支援施策の検討が必要である。	ては、平成30年度に作成したPR ツールを活用して積極的かつ効果的に広報していくともに発していくともに望学生と地元企業の相互理解度の促進に努める。 また、これででの成果を活かした、学生の地元定着えていけた今後の施策等を考えていく。
	22 「地元就職力アップ」大学支援事業	企画課	地元就職者数の増加を 図るため、市内大学へア ドバイザーを派遣し、 大学生と奨学の市内 接認定企業などの市支援 とのマッチングを支援 する。	アドバイザーによる 市内大学生と奨学金 返還支援認定企業などの市内企業との	_	目標実績達成率		200 件 51 件 (25.5 %	200件 (R1年度)	10, 000	9, 884	_	5, 400	係長	0.10 人	遅れ	7月か実施、 で ・ 記で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で			
IV-3-(2)- 1V-3-(2)- 1	23 KitaQフェス(学園 祭)開催事業	東京務所	東京から北九州市への交流人口の拡大(観光歌の増)、U·Iターン就職や移住など地方創生をある新たなが、首都プロとはる新たないの取まり、北九州市の魅力発信イベント「KitaQフェス」を実施するもの。	イベントを契機としたネットワークの構築	0人 (H28年 度)	実績 2	2, 457 人	2,206 人	累計 3,000人 (R1年度)	20, 000	20, 000	20, 000	20, 700	係長	0.30 人	大変順調	イベントを契機に、ネット ワーク登録者数が累計4,663人と 目標を大きく上回り、首都圏で のネットワーク構築に貢献して いるため、「大変順調」と判 断。	大順調	【評価理由】 各種のでは、メールンスに接触を対して、メールンスをSNSにて、容易をでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	「KitaQフェス」の実施を通して生まれた新たなネットワークを活用し、東京から北九州市への交流人口の拡大、U・Iターン就職や移住などを推進していく。

				【Plan】 計画 .	/ [Dc) 実施	<u></u>							[Cho	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号	N. 基本計画の施策を構成する	主要事業所管課名	± ₩ ₩ ₩ ₩	事	業評価の成果指	標(目標・乳	ミ績)		H30年度	H29年度	人件	費 (目安)		H30	年度		R2年度予算要求に向けた
・施策名	No. 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)	H294	F度 H30年度	中期目標	予算額 決算 (千円) (千I	額 決算額 (千円)	金額(千円)	職位人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
			市民自らがまちの魅力			目 90.0	% 90.0 %	6				課 0.30					「北九州市が好き」「北九州市が誇り」「北九州市と関わり
			市民自らがまちの魅力を発信するウェブリ風の時に北九州市時と風市で、本見ので、本見いて、本見いのはない。	本市への愛着がある と答えた(肯定的な 回答をした)市民の 割合	79.3% (H25年 度)	実 82.4	% 80.8 9	90.0% (R1年度)				K				【評価理由】	たい」と思い、市民や市出身まが自ら北九州市の魅力を発信していく輪を広げ、北九州市への愛着・自信・誇りを高めていくために、
IV-4-(1)- ① 北九州の	24 北九州市魅力発信事業	地方	さらに情報の共有や補足 等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な 情報発信を展開する。 また、日頃本市行政へ			達 成 91.6 率	% 89.8 9	%	- 12, 390 11, 1	30 12, 353	8, 700	係 0.30	人 順調	「本市への愛着がある」「本市が好きだ」の両方の指標について、実績が前年度を下回り、目標値を達成することができな	順調	め、北九州市魅力発信事業での「北九州市 時と風の博物館」 が、一定の成果を収めているため「順調」と判断。	(1)ウェブサイト「北九州市時と風の博物館」を通じて、特に20歳以下の若い世代に対し、シビックプライドの向上や地域
魅力づくり		室	協力的な主に市外居住者 の方に対し、本市への一 層の愛着と誇りを共有 工活動への感謝と会後	+++1°+7++° 1. ~	70 EN	目標 90.0	% 90.0 %	6						かったものの、高い水準を維持 していることから、「順調」と 判断。		【課題】 若い世代を視野に入れた、全 体的に広がりのある、より多く の市民を巻き込むような形の取 り組みを展開する必要がある。	情報の効果的な浸透を図る。 (2)「北九州市応援団の集い」の開催や北九州市応援団の の戦略的な情報発信等を通して、本市の魅力を市内外で共る
			のさらなる場として「北九 願いする場として「北九 州市応援団の集い」を開 催する。	本市が好さたと答えた た(肯定的な回答を した)市民の割合	78.5% (H25年 度)	模	% 85.5 %	90.0% (R1年度)				職 0.30	۸			り組みを展開する必要がある。	ティーションを図る。 ティアロモーションを図る。 また、首都圏や福岡市、若利 世代をターゲットに、効果的が
						達 成 95.7 率	% 95.0 9	%									シティプロモーションを図る。
			市民自らがまちの魅力 を発信するウェブサイト	本市への愛着がある	79. 3%	標 90.0	% 90.0 %					課 0.30	٨				「北九州市が好き」「北九州市が誇り」「北九州市と関わりたい」と思い、市民や市出身はが自ら北九州市の魅力を発信していく輪を広げ、北九州市への
IV-4-(2)-	1 (2) さりに	市民自らがまちの魅力ト 京舎に対していまりがまります。 京本 京本 大田 で 東京 で 東	と答えた(肯定的な 回答をした)市民の 割合	(H25年 度)	実 82.4	% 80.8 9	90.0% (R1年度)						「本市への愛着がある」「本		【評価理由】 戦略的なシティプロモーションの展開のため、北九州市魅力発信事業での「北九州市 時と風の博物館」が、一定の成果を	か目ら北九州市の魅力を発信していく輪を広げ、北九州市への愛着・自信・誇りを高めていっために、 (1)ウェブサイト「北九州市	
① 戦略的な シティプ ロモー	25 北九州市魅力発信事業	地方 創生 推進 室	等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。 また、日頃本市行政へ協力的な主に市外居住者			率	% 89.8 9		- 12, 390 11, 7	30 12, 353	8, 700	係 0.30	人 順調	市が好きだ」の両方の指標について、実績が前年度を下回り、 目標値を達成することができなかったものの、高い水準を維持	順調	断。	に20歳以下の右い世代に対し、 シビックプライドの向上や地域 情報の効果的な浸透を図る。
ションの 展開			の方に対し、本市への一層の愛着と誇りを共有し、活動への感謝と今後のさらなる取り組みをお	本市が好きだと答え	78. 5%	保	% 90.0 %	90.0%						していることから、「順調」と判断。		【課題】 若い世代を視野に入れた、全体的に広がりのある、より多くの市民を巻き込むような形の取り組みを展開する必要がある。	(2)「北九州市応援団の集い」の開催や北九州市応援団の の戦略的な情報発信等を通して、本市の魅力を市内外で共れ し、口コミなどを活用したシ
			願いする場として「北九州市応援団の集い」を開催する。	た(育定的な回答を した)市民の割合	(H25年 度)	達	% 85.5 9 % 95.0 9	《R1年度》 				職 0.30	٨			フィュュットでははは、7 でのなみ、のか。	した。ロースを図る。 フィースを図る。 フィースを図る。 また、首都圏や福岡、数果的が 世代をターゲットに、効果的が シティプロモーションを図る。

			【Plan】 計画 /	/ [Dc	o]	実施										[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号 • 施策名	No. 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組 所管課名	事業・取組概要	事業	業評価の成果指	指標(目	標・実績)		1.40	H304		H29年度		(目安)			H304			- R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
		市民自らがまちの魅力 を発信するウェブサイト 「北九州市 時と風の博	指標名等 本市が好きだと答えた(肯定的な回答をした)市民の割合	現状値 (基準値) 78.5% (H25年 度)	目標実績達	86.1 %	90.0 % 85.5 % 95.0 %	中期 目標 90.0% (R1年度)	予算額(千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	課長 0.30		事業価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
	26 北九州市魅力発信 創生 事業 室	物魅さ等源情 協の層しの 館力らをを報ま力方の、さ で再共で、対す市外市を が表情うき信、な対着動な を発情うき信、な対着動な を発情うきに、 が開本市外市を 関いて の、 とで、 関本市外市を が関いる の の、 とで の の の の の の の とで、 関本市外市を が の の の の の の の の の の の の の の の の の の	本市への誇りや自信 があると答えた(肯 定的な回答をした) 市民の割合	56. 7% (H25年 度)	目標 実績 達成率	57.4 %	75.0 % 53.8 % 71.7 %	75.0% (R1年度)	12, 390	11, 730	12, 353	8, 700	係 0.30) A	順調	「本市への誇りや自信があえ と答えた市民の割合」や「北九 州市の魅力を思いつかない市で の割合」が前年度に比べや授 でしているが、北九州市応援団 員の数は増加(H29:1,069人、 H30:1,080人とっており、「本 市が好きだと答えた市民の は基準値を上回いることから「順調」と判断。			
IV-4-(2)-		のとうな場合として「北九 願いすな場として「北九 州市応援団の集い」を開 催する。		16.8% (H23年 度)	実績		5. 0 % 9. 3 % 14. 0 %	5.0% (R1年度)					職員 0.30) \				【評価理由】 「北九州市応援団員の数」は 目標値を下回ったものの、「北 九州市応援団」への情報発信活 動や会員募集、また「北九州市 時と風の博物館」の登録点数	「北九州市が好き」「北九州市が誇り」「北九州市と関わり」「北九州市と関わりたい」と思い、市民や市出身者が自ら北九州市の魅力を発信していく輪を広げ、北九州市の愛着・自信・誇りを高めていくために、(1)ウェブサイト「北九州市
12 ②北応人トに報 ・ 九援のワよ発 ・ 小すネーる信 ・ をるック情	プラルスデー 所	首本 (本本の) を (本の) を (本の	北九州市の認知度 (地域ブランド調査 によるもの)	18位 (H28年 度)	達成率		位以内 19 位 —	10位以内 (R4年度)	6, 000	5, 285	_	4, 900	課長 0.10 係長 0.30)	やや遅れ	目標は下回ったものの、新規 移住相談者は増加(H29:112 人、H30:138人)した。また、 ふるさと納税寄附額も増加 (H29:3,600万円、H30:1.97億円)しており、本市の認知度向上に向けた成果は見られている。 一方で、北九州市の認知度 (地域ブランド調査によ到達 の)が目標の順位には到達せず、「やや遅れ」と判断。	順調	は、まないの成果を収めている。応用を収めている。応用を改せれ、代のないの成果を改せ、大きなとなる。では、大きなでは、大きないのでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが	時と風の博物館」を通じて、特に20歳以下の若い世代に対して、シビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透を図る。 (2)「北九州市応援団の集い」の開催や北九州市応援団の の戦略的な情報発信等を通し
	。 ふるさと寄附金促 創生	「ふるさと北九州市応援寄附金」についてPRし、寄附件数及び寄附金額の増加を図る。また、寄附金の使い道		46件 (H24年 度)	実績	1,667 件	前年度比增11,037 件662.1 %	_	- 32,500	99, 202	14, 894	13, 950	課 0.30			返礼品の調達方法の見直しや 様々なPR媒体を活用するなどの 対策を行ったことががを奏し、			
	進事業 推進室	を寄附者が選択できる仕組みと一定額以上の寄附者に対する地元特産品等の贈呈を通じ、本市の魅力を全国に発信する。		約450万円 (H24年 度)	実績産	約3,600 万円	前年度比增 19,777 万円	_					職員 1.00		順調	寄附件数や寄附金額が大幅に増加したため、「大変順調」と判断。			

				【Plan】 計画 /	/ [Dc)]	実施										[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号	No. 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業	業事業・取組概要	事業	に に に に に に に に に に に に に	指標(目	標・実績)				年度	H29年度		1 (目接	安)		H30:			- R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
・施策名	王な事業・取組	所官課名	K 77 WILLIAM	指標名等	現状値 (基準値)		H29年度	H30年度	中期目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職 位	人数	事業評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方同性
				北九州市の認知度 (地域ブランド調査	19位 (H25年	保	10位以内	10位以内	10位以内					課長	0.30 人					
IV-4-(2)-	20 情報発信・取材協	地方	め、新聞、雑誌、テレ	によるもの)	度)	養 達成率		—	(毎年度)	00.000	01.404	00, 400	00.050	係		やや	雑誌・新聞やテレビ・ラジオ 等のマスコミによる情報発信は 積極的に取り組んでいるが、地 域プランド調査による順位が、地	やや	【評価理由】 雑誌・新聞等掲載件数をはじめ、マスコミに対する情報発信件数は増加しているが、地域ブランド調査におりる情報を	引き続き、本市の都市ブラン
都市イ メージの 向上	29	推進室	ビ、インターネット等のマスメディアを通じた本市のPRに取り組む。			惊	10位以内	10位以内		22,000	21, 484	32, 400	20, 950	長	1.00 人	遅れ	認知度では昨年と同位、情報接触度については昨年より1ランク落ちたため、「やや遅れ」と判断。	遅れ	わないことから「やや遅れ」と 判断。 【課題】 新たな層への情報発信方法を	引き続き、本市の都市ブランド推進に向け、魅力づくりや戦略的な情報発信に努める。
				北九州市の情報接触度 (地域ブランド調査によるもの)	15位 (H25年 度)	実績	17 位	18 位	10位以内 (毎年度)					職員	1.00 人				検討し、露出の増加を図る。	
						成率	_	_												
		都市	[// ++ th=			標	_	_						課 長	2.00 人		「北九州市公共施設マネジメ			
	30 公共施設マネジメ ント推進事業	マジン政課 ・ ネメト策	「公共施設マネジメント実行計画」に基づき、 公共施設に関する将来的 な財政負担を軽減するための取り組みを進める。	公共施設保有量の縮減	全公共施設 (H26年度)	ま 積	-	_	約20%削減 (R37年度)	11,000	2, 713	19, 059	75, 500	係長	3.00 人	順調	ント実行計画」の着実な推進を図るため、「公共施設マネジメント5ヶ年行動計画」に基づき、PDCAサイクルで評価・見直しを行い、概ね計画どおり実施したため、「順調」と判断。			
						達成率	_	_						職員	3.00 人				【評価理由】 予定どおり施策を実施することができたことから「順調」と	計画の推進にあたっては、今
V-3-(2)- ② 公共施設 の転活用 などの検 討				門司港地域における複合公共施設の整備	モデルプロ ジェクト画 配置計画 定	目標実績		複た を を を を を を を を を を を を を	複合公共施 設の整備の 推進 (R5年度整					課長	1.00 人			順調	判断。 【課題】 課題の進捗状況を的確に把握	後も「公共施設マネジメント5ヶ年行動計画」により進捗状況の 的確な把握及び評価を行い、公 共施設マネジメントの取り組み を継続的に進めていくととも
	モデルプロジェク 31 ト再配置計画推進	都マジン	「北九州市公共施設マネジメント実行計画」に 基づき、門司港地域及び 大里地域において、公共	※中期目標改訂 (R1年度目標設定時)	(H27年度)	達成率		_	備予定) 	32, 600	25, 850	_	46, 500	係長	2.00 人	順調	門司港地域では、公共事業評価(事前評価1)の実施及び基本計画を策定するとともに、大里地域では居住ゾーンの民間売却等に向けた事前調査を行うな		説明や市民意見の把握に努める など、丁寧な取り組みを進める 必要がある。	けた検討・調整等を実施する。
	事業	· 政策 課	施設の集約等の取り組み を進める。	大里地域における居 住ゾーンの民間売却	モデルプロ ジェクト再	目標		居住ゾーンの民間売を施入の事態の実施及ンの整備の推進 の実施スンの整備の推進 居住・ジーンの募) 居住・ジーンの募)	居住ゾーン 居住以間開 の、公子 場がを 場がを はない。	,							ど、計画の実現に向けた具体的 な取り組みが進んでいるため、 「順調」と判断。			
				の整備 ※中期目標改訂 (R1年度目標設定時)	ディックト デェックト 配置計画策 定 (H27年度)	美績 達成率		及び公園広場 及び公園広場 ゾーンの整備の 推進	場ゾーンの 整備 (R5年度完 了予定)					職員	2.00 人					

			【Plan】 計画 /	/ [Do]	実施									[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号	No. 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組 所管課名	事業・取組概要	事業	美評価の成果指標	票(目標・実	責)		H304		H29年度		(目安)		H30:			R2年度予算要求に向けた
・施策名	王な争業・収組 所官談名	77 7/12/02	指標名等	現状値 (基準値)	H29年	度 H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職 位 人数	事業評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
		ユネスコ世界遺産に登録された官営八幡製鐵所 関連施設について、その		_	目 5万標	人 5万 人						課 0.30 人		地域の祭りへの参加(出展) や親しみやすいPRチラシの作成 など、世界遺産の理解促進に努			
	32 世界遺産推進事業 遺産課	価値の理解増進のため、 来訪者受入れ環境の整備 はもとより、市内外へ向 けた広報・PR活動を展開	旧本事務所眺望ス ペースの来場者数	_	実 2万2千 達	人 1万9千 人	20万人 (H28~ R1年度)	24, 000	22, 661	22, 583	8, 700	係 0.30 人	遅れ -	めた。トイレや駐車場の確保により眺望スペースに行きやすい環境づくりも行っているが、眺望スペースの来場者数は目標に達しなかったため、「遅れ」と			
		する。			成 44.0	% 38.0 %						0.30 人		判断。			
	##思濟 在 發 经 咨 在 世界	国や関係自治体、所有		租 投 押 据		尾施 耐震設計の 実施						長 0.30 人	_	予定していた旧鍛冶工場、修		【評価理由】 世界遺産登録後、資産保全に	
	33 世界遺産登録資産 遺産保全活用事業 課	国や関係自治体、所有 者等との連携のもと、遺 産価値の保全につとめる。	登録資産の保全	のための調査継続		措震 資産の耐震 注施 設計の実施	保全計画策 定 (R1年度)	8, 900	8, 799	8, 068	8, 700	係 長 0.30 人	順調	籍工場の耐震設計を実施したため、「順調」と判断。		向けた調査を計画通り進めると 共に、理解促進・集客増に向 け、市内外の学校への働きかけ やARアプリ導入、チラシの作	
V-3-(2)-					達成 — 率	_						職 0.30 人				成、来場者記念カードのリ ニューアルなどを行い、観光資源としての付加価値向上が進ん だが、来場者数は目標に達しな	世界遺産登録された構成資産の保全を行っていくとせて、問
③ 近代化遺 産などの 文化財の			旧本事務所眺望ス	-	13%	人 5万 人	20万人					課 0.20 1			やや 遅れ	かったことから「やや遅れ」と 判断。 【課題】	の保全を行っていくと共に、関係機関と連携してインタープリテーション(理解増進・情報発信)の取り組みを推進し、観光
活用			ペースの来場者数	_	達	人 1万9千 人 % 38.0 %	(H28~ R1年度)					長 0.30 人				登録後3年が経過して眺望スペースの来場者数も減少傾向にあることから、世界遺産の魅力を伝えるための更なる情報発信	資源としての魅力向上を図っていく。
		本市の特色を活かしな			率	万 3,652 万		_					-	市内外の学校への社会見学や		るなんが必要。また、社会見学 や修学旅行等のモデルコースと なり得る市内各所への周遊促進 など、市内への長時間滞在に繋	
	34 世界遺産関連連携 遺産事業	がら、世界遺産を含む北 九州市の取組みを効果的 に発信できるツールの開 発や機会を増やし、幅広	北九州都市圏域内への観光客数	3,640万人 (H27年度)	実 3,501	万 集計中	3,658万人 (R1年度)	6, 800	6, 619	11, 355	8, 700	係 0.30 人	やや 遅れ	修学旅行の誘致の実施、AR記念 撮影アプリの導入や来場者記念 カードのリニューアルなど、集 客増に向けた土台作りが進んで		げていく必要がある。	
	per s	い世代・地域の来訪者を 呼び込む。			達 成 96.0 率	% —	_							いるが、眺望スペースの来場者数は目標に達しなかったことから「やや遅れ」と判断。			
					目標 177.9	万人 178.2 万人	_										
			北九州都市圏域内の 宿泊者数	-	実 232.5	万 集計中	178.6万人 (R1年度)					職 0.30 人					
					達成 130.7率 目標 4	% — 件 4 件											
		ア経済交流推進機構」を	会員都市間ネット ワークの活用による 共同プロジェクトの	4件 (H26年	実 3	件 3 件	4件以上					課 0.20 人				【評価理由】 第6回総会開催時には、会員都	
WI-1-(1)- ① 「東アジ		設立(現在11都市)。 「国際ビジネス」、「環 境」、「観光」、「ロジス ティクス」の4部会を設け	六回フロフェノトの	(達	% 75.0 %	度)				_	在		観光部会共同プロジェクトが 中止となったが、韓国・仁川広		市同士のビジネス交流促進を目的とした「ビジネス商談会」を 併催し、商談件数は180件に上った。また、各部会では、都市間	第三者評価委員会や会員都市 からの提言等をもとに、機構の
ア経済交 流推進機 構」事業 の推進	35 東アジア経済交流 アシ 推進機構推進事業 流課	て経済交流活動を行っている。 本市は、本機構の事務 局を構成し、機構活動の 円滑化と活性化に貢献す			目 5	件 4 件		6, 500	6, 447	7, 325	11, 050	係 0.50 人	順調	域市で開催された第6回総会や部会開催等、ほぼ計画通りの実施となったため「順調」と判断。	順調	ネットワークが強化できたこと から「順調」と判断。 【課題】	活動についての在り方を検討し、活性化を図る。
		円滑化と活性化に貢献するとともに、本市企業の 国際ビジネス拡大に資する活動を実施する。	東アジア経済交流推 進機構における会議 数	(関)	実 4 達	件 6 件	21件 (H27~ R1年度)					職 0.50 人				機構活動の活性化と効率化を図る必要がある。	

					【Plan】 計画 /	/ 【Do] 月	実施									[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号	No 基本i	計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業	業評価の成果指	標(目標				H30±	丰度	H29年度	人件費 (目安)			H3C		I	- R2年度予算要求に向けた
・施策名	NO.	主な事業・取組	所管課名	事来・ 収 租佩安	指標名等	現状値 (基準値)	H	129年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職 人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
	36 国際	祭交流事業	アジ交流	というため、別内国の文	姉妹・友好都市を中 心とした海外諸都市 との交流事業参加者 延べ人数	343人 (H26年 度)	実績 達	392 人	330 人 324 人 98.2 %	330人以 上 (毎年度)	6, 100	4, 065	5, 140	14, 950	課長 0.30 人係長 0.40 人職員 1.00 人	. 順調	交流事業は概ね目標どおり (目標:30件、実績:28件)実 施し、目標に近い参加者があっ たことから「順調」と判断。		「無難」	
VII-1-(1)- ② 都市間交 流・連携 の推進	37 7 4	ジアゲートウェ 進 事業	アジア交流課	アセアン諸国などアジ アの新興国との経済交流 やシティプロモーション を進める。	アセアン諸国などア ジアの新興国との交 流事業参加者延べ人 数	135人 (H26年 度)	実績 達	361 人	110 人 453 人 411.8 %	110人以 上 (毎年度)	1, 100	2, 589	2, 458	8, 820	課長 0.18 人 係長 0.30 人 職員 0.50 人	大変順調	アセアン諸国との交流事業は、目標どおり(目標:7件、実績:12件)実施し、目標を上回る参加者があったことから「大変順調」と判断。	順調		姉妹・友好都市、アセアン諸 国等のアジア新興国との様々な 分野における交流・連携を一層 強化していく。
	38 ASE/ 促進	AN新都市間連携 進事業	アジア交流課	発展著しいアセアン地域において、都市間連携、経済交流の推進・ア・プリンペンペンを行うとととのは、その他の都を検討する。	カンボジア及びアセ アン新規交流都市と の交流事業参加者延 ベ人数		実績 達成 8:	17 人	20 人 23 人 115.0 %	20人以上 (毎年度)	2, 000	624	1, 714	7, 955	課長 0.17 人 係長 0.30 人 職員 0.40 人	_	カンボジアからの人材育成研修団の受け入れや、カンボジアで開かれた姉妹都市交流事業等に参加し、姉妹都市間の交流を深めネットワークを強化することが出来たため「順調」と判断。			
VII-1-(2)-② ② 文化・ス ポーツ交 流の拡大	39 国際	祭交流事業	アジア交流	ことのでは、いい回じの文	姉妹・友好都市を中 心とした海外諸都市 との交流事業参加者 延べ人数	343人 (H26年 度)	実績 達	392 人	330 人 324 人 98.2 %	330人以 上 (毎年度)	6, 100	4, 065	5, 140	14, 950	課長 0.30 人 係長 0.40 人 職員 1.00 人	_	交流事業は概ね目標どおり (目標:30件、実績:28件)実 施し、目標に近い参加者があっ たことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 様々な分野における交流事業において、おおむね目標数に達しているため、「順調」と判断。 【課題】 姉妹・友好都市との様々な分野における着実な交流をさらに進めていく必要がある。	姉妹・友好都市との様々な分 野における交流・連携を一層強 化していく。
™-2-(2)- ② 海外の経済事所 の活用	中国	国ビジネスサ ート拠点整備事	アア流	駐大連北九州市経済事 務所及び駐上海出土海 経済事務所を設置ジ を設立 は、地元企業の ができる は、地元とも で が で で で で で で で で で で で で で で で で で	※中期目標改訂 (R1年度目標設定時) 海外事務所を利用し た企業数	85% (H26年 度)	実 養 成 率		70 % 89.5 % 127.9 %	80% 以上 (R1年度)	— 54, 958	54, 408	59, 116	_	課長 0.05 人	_	海外事務所の本市地域企業へ の貢献度及び海外事務所を利用 した企業数ともに目標を大幅に 上回ったため、「大変順調」と	大変調	【課題】	地元企業のビジネスサポート 強化、増大するインバウンド需要の積極的な取りと加え、 経費削減を含めた中国事務所の 適切な運営方法を検討する。
						374社 (H26年 度)	実績 達	449 社	379 社 563 社 148.5 %	390社 (R1年度)					職 0.20 人		判断。			

				<u>机木(正凹阀走内)</u>	【Plan】 計画 /	/ [Do]	実施									[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号	No	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要	事業	僕評価の成果指標	票(目標・実績)			H304	丰度	H29年度		1 (目安)	H30年度				R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
・施策名		王な事業・取組	所管課名	于不 "你担你又	指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職 位 人数	事業評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
		(사망) 사 차 씨코	国際	「多文化を受け入れ、 世界に開かれた魅力あり」 というビジョンのもとし、 多文化共生の社会づくり を推進するとともに、、幅	市民の「多文化共	51 8%	目 50 %		5304 N. F					課 0.05 人		国際交流団体や市民を幅広く 巻き込んだ啓発に努め、多なる。 共生の意識付けたそ行ってい造の依 東たに広がりが見られる音とと 「知知のではないがりが見られる。 「知知のではないがりが見られる。 「知知のではないではない。」 「知知のではない。 「知知のではない。 「知知のではない。 「知知のではない。 「知知のではない。 「知知のではない。 「知知のではない。 「知知のではない。 「知知のではない。 「知知のではない。 「知知のではないない。 「知知のではないない。 「知知のではないない。 「知知のではないないないないないないないないないないないないないないないないないないない			多文化共生の理解者の広がり や担い手育成につなげるため、 今後も引き続き積極的かつ効果 的に広報していく。
	41	(公財) 北九州国 際交流協会補助金	政策課	は に に に に に に に に に に に に に	※中期目標改訂	(H29年 度) <u></u>	達	6 54.8 %	53%以上 (R1年度)	48, 018	48, 018	48, 489	2, 325	係長 0.10 人職 0.10 人	順調				
		多文化共生推進事 業		日本人市民に対して、 多文化共生に関する意識			目 50 %	6 50 %			3, 253			課 0.10 人		昨年度に引き続きFMラジオ番組の1ヵ月間のコーナーを活用し、北九州市在住の外国人市民に自国の文化や日本での生活について紹介してもらったほか、地域での出前講演を行い、日本人市民に対する多文化共生の意識啓発を実施できたため、「順調」と判断。			
VII-2-(3)- ② 国際都市			国際政策課	日本化や民間では、 大生に変する機とで地も安発提供を受けれて、 大生に変っているでは、 大生に変っているでは、 大生に変っているでは、 大生に変っているでは、 大生に変っているでは、 大生に変っているでは、 大生に変っているでは、 大生に変っているでは、 大生に変っているでは、 大生に変っているでは、 大生に変いまする。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	市民の「多文化共 生」という言葉の認 知度 ※中期目標改訂 (R1年度目標設定時)	51.8% (H29年 度)	実 51.8 %	6 54.8 %	53%以上 (R1年度)	3, 971		3, 313	5, 650	係 0.30 人	順調		順調		
国际部内 にふさわ してくり							達成 103.6 %率	6 109.6 %						職 0.20 人					
					外国人人口の社会動 態増加数(H28年増	外国人社 会動態増	目標 実	+1, 400 人 +1, 273 人	+1,600人					課 0.30 人					
		地方創生に向けた	国際	留学生等を地域で支え る体制を構築し、留学誘	加数比)	加数+ 1,010人	達成率	90.9 %	(14)		00 16, 300) <u> </u>		区	. 順調	予定通り、留学誘致PRツールの作成や留学生支援ネットワークでの情報共有・意見交換の場を設けたことや、留学生の生活支援のための取組みも実施したことから「順調」と判断。			
	43	留学生等受入定着 促進事業	政策 課	致、生活支援、就職支援 の各施策を一体的に実施 し、定着促進を図る。	留学生と地元企業の 相互理解度	_	目標	単年度目標設定なし		- 21,000			8, 700	係 長 0.30 人					
					留学生等高度人材活用の一年では 用の一年(企業との 相互理解が進んだ状態=留学生が市内企 業の情報を4社以上 知っている)	度)	実績	_	35.0% (R2年度)					職員 0.30 人					
					,		成率	_											

				【Plan】 計画 /	/ [Do	o]	実施										[Che	eck]	評価 / 【Action】改善		
施策番号	No. 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					I	H30:	I	H29年度		費(目安)	H30年度			T	R2年度予算要求に向けた	
・施策名	主な事業・取組	所管課名	争未・収祉似安	指標名等	現状値 (基準値)		H29年度	H30年度	中期目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職 位	人数	事業評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性	
			枢、都」 国市階16市北してヨートリーのを出す。 「連携である」に連携である。 「連携である」に連携である。 の進想即と州・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			目標	80 %	80 %	90% (R1年度)					課長の	0.20 人		北 28年度 28年度 28年度 28年度 28年度 28年度 28年度 28年度			会後も県内周辺市市では 一大のでは では では では では では では では では では	
		政策 調整 課		(一部実施含む) る。 は、	69% (H28年 度)	実績	90 %	90 %						長							
	新たな広域連携推					達成率	112.5 %	112.5 %		或盖 1425	050	1, 278	13, 300	係。		順調			ても関門地域のPRがフォトウェディング受入れ数の増に繋がっており「順調」と判断。		
	進事業					目標	関門地域の活性 化に資する連携 会議等での取組 の協議・検討	関門地域の活性 化に資する連携 会議等での取組 の協議・検討	関門地域 連携推進		859	1,270		長	.80 人	104 DM					
				企画部門等で会議済 成長に繋がる取り組 みについて協議・検	_	実績	関門地域連携推 進協議会とそれ に伴う両会議 開催	関門地域の活性 化に資する連携 会議等での取組 の協議・検討	協議会と それに伴 う両市企 画部門等					職。	. 40 人		を強化し、取組みを深化させる ことができたため「順調」と判 断。				
WI-3-(1)- ① 県内周辺 市町村と				āY		達成率	_	_	の会議の 開催					員	. 40 X						
市町村と の広域連 携		政調課	本市と近隣自治体(福岡県北東部の16末駅)で			目標	3,645 万	3,652 万人				21, 843	17, 400	課。	. 10 人	,	成果指標について、平成30年 度実績は集計であるが、平成 29年度実績において観光客数は 目標を下回りまである。 数では中期目標を超える結果と なったため、「順調」と判断。				
				北九州都市圏域内へ の観光客数	3, 640万 人 (H27年 度)		3, 501 万人	集計中	3, 658万 人 (R1年度)					長	. 10 🔍						
	45 携事業					達成率	96.0 %	_		10 500	10 263			係の	65 J	旧画					
	携事業		形成された、連携中枢都市圏「北九州都市圏域」のブランディング、プロモーション事業を行う。			目標	177.9 万人	178.2 万人		10, 500	10, 263			長 °	. 00 X	川央 山町					
				北九州都市圏域内の 宿泊者数	177. 4万 人 (H27年 度)	実績	232.5 万人	集計中	178.6万 人 (R1年度)					職 1	.30 人						
						達成率	130.7 %	_						員 [「]		A					

				和朱(止凹调金问)	【Plan】 計画 /	/ [Do]	実施									[Che	eck]	評価 / 【Action】改善	
施策番号		基本計画の施策を構成する	主要事業	± 44. T- 40 100 ±	事業	美評価の成果指標	【(目標・実績)			H304	丰度	H29年度	人件到	(目安)		H30:	年度		- R2年度予算要求に向けた
・施策名	No.	主な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額(千円)	職 人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	施策の方向性
			調整課	枢、都」長都を 地域の を戦市の を戦市の を戦があるまい。 を戦があるまでは、 を戦がある。 を戦がある。 を戦がある。 を戦がある。 を戦がある。 ではをである。 ではをである。 ではをである。 ではをである。 ではをである。 ではをである。 ではをである。 ではをである。 ではをである。 ではをである。 ではをいる。 ではをいる。 ではをいる。 ではをいる。 ではをいる。 ではをいる。 ではをいる。 ではをいる。 ではをいる。 ではなないる。 ではなないる。 ではなななななな。 ではなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	(一部実施含む)	69%	目 80 %	90%	90%					課 0.20 /		北 本 本 本 本 本 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大		【評価理由】 おおり は 大き は 大き で は まから は 集が で は と で で を で で を で で を で で を で で を で で を で で か で か	今後も近隣都市との連携を一 層強化していく。
	46	新たな広域連携推 進事業				度)	率	112.5 %	(R1年度)		859	1, 278	13, 300	係長 0.80 /	_ 、 順調		順調		
VII-3-(1)- ② 近隣主要 都市との 都市間連	-				本市と下関市両市の企画部門等で会議を開催し、両市の経済成長に繋がる取り組みについて協議・検討	— <u> </u>	日 開門地域の活性 化に対する 通報 を は と は は は は な は は は は は は は は は は は は は		講題報報 関連協そう画の 関連協そう画の 開発議れ両部会開					職 0.40 丿					
	47	関門地域魅力向上 事業	政調課 都マジン政課策整 市ネメト策	下関市と連携して、関門地域の魅力を官民協働 でブランド化し、関門 ファンや宿泊型滞在観光 客の増加を図る。	川宿泊者数、日帰り観	_ ;	目標 2. 227. 750 円 実績	集計中	9 505 405 + E		2 20, 459	20, 750	課長 0.50 /		観光消費額の増加額については集計中であるが、地元ステークホルダーの参画を得て、「関門」の認知度向上に確かな手ごたえ(WEB閲覧数等)を感じているため、「順調」と判断。		地方創生推進交付金事業が令和2年度で終了することを見据え、次の事業展開を検討している。		
			政調課策整			26都市 (H28年 度)	目標 26 都市 実績 達成率		27都市 (R1年度)	4,718	3, 658	3, 600		課長 0.05 丿	_	西九州軸での活動において、 北九州市の食の魅力の料地域を ションを行うなど、九州地域を 設における交流連携や西九州軸 及び東九州軸を精力的 に行っているため、「順調」と 判断。	順調	【評価理由】 ・ 連携がある交流・でははなどにおける交流・ではを上のでははを上のではではできます。 では、	今後も九州の各地域との連携を一層強化していく。
WI-3-(2) ② 九州各地 域連携		広域行政推進事業			連携事業の実施(西 九州軸での活動)	1回 (H28年 度)	達	1 💷	1回 (毎年度)				3, 075	係長 0.10 /					
					連携事業の実施(東 九州軸での活動)	1回 (H28年 度)	実 1 回達	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1回 (毎年度)					職員 0.20 丿					